

## 平成13年度第1回宇都宮市生涯学習推進懇談会議事録

開催日時 平成13年12月25日(火)午後1時30分～3時40分  
開催場所 14A会議室  
出席委員 23名  
別紙のとおり  
会議の公開・非公開の別 公開  
傍聴者 1名(下野新聞記者)

### 【議 事】

井上係長 齋藤会長 阿部次長 丹生課長	開 会 あいさつ 〔委員紹介〕 〔事務局職員紹介〕(自己紹介)
齋藤会長	第2次宇都宮市生涯学習推進計画がこのたび策定されました。計画について事務局から説明をお願いします。
川田 <small>総括主査</small>	〔第2次宇都宮市生涯学習推進推計画について説明〕 (1) 策定の趣旨 (2) 経 過 (3) 概 要 (4) 生涯学習推進体制について
広野係長	
齋藤会長	計画とその推進体制について説明がありましたが、ご意見ご質問はございませんか。
加藤委員	公民館長や分館長、分館主事の制度が廃止され、新しい方々が置かれることで改革が進むという解釈でよいのでしょうか。
広野係長	11地区の公民館には、現在非常勤の公民館長が置かれていますが、来年度からは地区市民センター長が公民館長を兼ねる形で一本化されます。分館については、これまで社会教育施設として教育委員会に位置付けされていましたが、これを市長部局に移し、コミュニティセンターとして地域振興と生涯学習の推進を併せて行う体制を整備することにより、分館長・分館主事の制度を廃止します。コミュニティセンターには、新たに地域雇用の非常勤職員を置き、またこれを担当する課にも地域を担当する正職員を置いて地域のまちづくりを進めようとするものです。教育委員会としては、中央及び市街地の生涯学習センターに、非常勤の生涯学習指導員を置い

- てコミュニティセンターにおける生涯学習事業を支援して参ります。
- 齋藤会長 命令系統が複雑に入り組んでいたものを簡略化して速やかに動けるようにしていくということだと思います。一挙に変わらなくても、少なくとも多年の課題に改正を加えたということだと思います。
- 臼井委員 変更の時期はいつですか。また、人数が減ることはないのですか。
- 広野係長 今議会で条例が可決され、来年4月から実施となります。また、今回の制度改革は行政改革の側面と、システムを変えるという側面の両方から進めてきたもので、公民館長や分館長・分館主事を廃止する一方、生涯学習指導員や地域雇用職員といった新たな制度を設けますが、総体としては人数は減ります。
- 齋藤会長 人の減らない改革は改革でないという意見もあれば、生涯学習を推進するのに人を減らしてはならないという意見もある。どちらのご意見ですか。
- 臼井委員 私も公民館に何うことがあります。改革なので、人を少なくするというの一本の柱だと思いますが、将来に向けて行政のすべきことが多岐にわたり、指導員や地域の担当職員の方一人ひとりの仕事が増えて大変なのではないかと思います。
- 広野係長 宇都宮市では市民協働のまちづくりを進めており、市民が自らやっていく部分と行政がやるべき部分、そして行政と市民が協働してやらなくてはならないことをある程度明確にすることが必要と考えています。これまで生涯学習について企画・立案など行政が大きな部分を担ってきたと思いますが、今後生涯学習は市民が主体的に学ぶということを前面に出し、地域のための学習であれば、地域住民の企画立案で行えるようシステム全体を変えていくというのが今回の流れです。
- 齋藤会長 今回の変更で、生涯学習の内容に後退がないようお願いしたいというのが質問者の真意ではないかと思います。よろしく願いいたします。
- 佐々木委員 質問というより意見ですが、公民館が生涯学習センターに変わるということは、単に名称が変わるだけではなく根本的に大きな問題であることを我々が認識した方が良くと思います。  
まず社会教育法との関係で、法によって保障されていた地域住民の権利みたいなものがどうなるのかがグレーゾーンにあることを認

識すべきです。

また、運営審議会について、宇都宮市クラスの都市で中央にひとつだけで果たして地域住民の意思を反映できるのかという問題があります。さらに、出張所業務と地域振興業務と生涯学習業務とを一体化すると、ややもすると生涯学習業務が手薄にならないかという率直な思いがございませう。生涯学習指導員等だけで果たして十分なのかということ意識してほしいと思ひます。さらに、市民活動支援センターなど他の組織と混同されないかということも意識する必要があると思ひます。

そして、家庭教育、学校教育、社会教育の統合という問題があるにもかかわらず、生涯学習センターというだけでは従来の社会教育の延長に生涯学習と看板を付け替えただけのような印象を受けます。学社融合などいろいろな課題があるということ、特に学校教育との兼ね合いが大きなポイントとなってくるので、こうした課題があることを認識していただきたいと思ひます。

斎藤会長

ご意見の表明ということでよろしいのですね。

我妻委員

私も分館に7年ほどお世話になりました。今分館がコミュニティセンターになろうとしていますが、もともと分館はコミュニティセンターだったような気がします。ですから、あまり違和感はないのですが、経験から申しますとあまり地域に長くいると問題の生じることもあります。地域雇用職員は地域から選ぶのか否か、また現在の分館主事のような転勤の制度があるのかどうかお伺ひします。

小島委員

地域雇用とはいへ、人件費は公費で支出するわけですから、私どもの考えでは地域に交付した金額の中で地域が職員を雇用するというふうにとめていますが、一般の方へのその辺のPRや具体的説明がなされていません。生涯学習課でもっとはっきり考え方を説明していただければ良いのではないかとと思ひます。

山本委員

説明を聞いていると、地域で学習し地域で生かしていくといった方向がより強いような感じを受けるのですが、そうしますとさきほど佐々木先生の言われたような運営審議会が中央だけで良いのかという心配があります。この辺の考え方を聞かせてほしいと思ひます。また、ボランティアの方々の活動が活発になってきたときの連合自治会の活動との兼ね合いについて、考えを聞かせていただきたいと思ひます。

丹生課長

人件費の関係ですが、4月からは市民生活課の所管となり現在市民生活課と一緒に地元説明に回っているところです。その中で、地域雇用職員は地域の方々に選んでいただきたいと説明しております。

ですから、先ほど我妻委員さんがおっしゃられた地元の方がよろしいのか地域外の方がよろしいのかについては、地域の方々の中で決めいただきたいと市民生活課は説明しております。また人件費については、1人で1日という考え方だけではなく、2人交代で1日という雇用のしかたも考えられることから、市民生活課では年間365日分を雇用できる予算措置をしていると伺っております。また、これから地域の推進組織を各地域ごとにつくっていただき、この推進組織を核として、コミュニティセンターを運営していただきたい。例えば自治会連合会や老人会、青少年育成会、コミュニティ協議会などが中心となってコミュニティセンター運営の組織づくりをお願いしたいと説明しております。

中山慶委員

長年の課題でありました公民館運営審議会の問題がこれで解消されいい方向に向かっているとは思いますが、しかし、職員の方達もしっかり把握し、連合自治会長さん方にもきちんと説明がなされないと生涯学習課と市民生活課との間で「こちらは知りません」とか「こちらは分かりません」というのでは一番大切な市民の教育ができないと思います。その辺のところを危惧しています。

丹生課長

本日午前中も市民生活課と今後の様々な問題について協議をしていたところですが、これからも協議を続け4月から地域の皆様方の使い勝手がこれまでと変わらないように、混乱のないように精一杯努力してまいります。また、市の広報でもPRし、公民館、分館にも張り紙をするなどPRを十分にし、地域の皆様方が戸惑いのないように意を配って参りたいと考えております。

斎藤会長

今回のこの「学縁」というのは個性を発揮するというような意味合いを持たせ、そしてその学習する空間というのは、いろいろなしがらみがかんじがらめになっている複雑怪奇な空間ではなく、透明な空間で、全体状況をよく判断して個人の特性を発揮するようなそういう雰囲気を持った宇都宮市の生涯学習をつくって行きましょうという意味を含めた積もりなのですが、今ひとつ言葉に力が足りない面もあるのかなとそんな感じもいたします。その辺ひとつご理解いただきたいと思います。

時間の関係もございますので、次の事業計画(案)の方に移らせていただきたいと思います。

事務局から説明をお願いします。

川田総括主査

〔第2次宇都宮市推進推計画に基づく事業計画(案)について説明〕

斎藤会長

重点事業の設定などご意見ご質問はございませんか。

加藤委員	10代から30代の人達が興味を持って参加できるものがこの中に盛り込まれているのでしょうか。また、団塊の世代とか就職に困っている人達が実務に対応しうるような教育が「生かす」「つなぐ」の中になくように思いますがいかがでしょうか。
川田総括主査	10代から30代の人達が参加できるものとのことですが、例えば重点事業の「学ぶ」の項の「ファミリーサポートセンターの整備」は、子供を持つ保護者の方々が会員となり、子供を預かってもらうことによって学習したり、就労したりするものです。また、「生かす」の項の「生涯学習ボランティアの養成」には20代の方も参加して生涯学習ボランティアを目指して学習中です。「つなぐ」の「宮っ子育成の日の制定」は、子供の健全育成の記念すべき日にしようと子供達とその保護者が一緒に参加できる催し物にしたいと考えております。また、こどものホームステイ・合宿体験の実施なども計画しております。 就職に役立つような事業につきましては、基本計画に施策として掲げてありますが、この事業計画には載っておりませでした。再度検討させていただきたいと存じます。
加藤委員	中小零細企業や団塊の世代の方々、20代後半の方々が興味を持つような施策を入れていただけるとよろしいかと思しますのでよろしくお願いたします。
添田委員	「男女共同参画社会実現のための学習」について5カ年の重点事業としてとても重要なものではないかと思えます。現在「男女共同参画社会実現」というときには社会の偏りをなくしていく、またこの偏りをなくすために社会のシステムを見なおしていくなど広範かつ重大な課題があります。女性だけの問題ではなく、男性も含めてということだと思えます。事業計画は1月に完成させるとのことですが、十分な検討がなされるよう希望します。
斎藤会長	「男女共同参画社会実現」は内容としては入っているが、成人教育として我々が担当する業務としてももう少し大きく取り出していただけないかというご意見ですね。
定岡委員	来年度から小中学校、高校でも総合的学習の時間というものを展開します。自ら問題を発見し、それを課題化して自らの力で解決していくというのが総合的学習の時間です。学校教育ではそういう指導要領に改正になっています。17年頃にはかなり芽が出てくる可能性があります。そこで、これと融合していかないとおかしな問題がおきてくると思えます。計画がすぐに使いものにならなくなるような、果たして10年後どうなのかその辺を踏まえた上で計画をお作りいただければと思います。

	作りいただけるとさらに良いと思います。
金子委員	幼稚園連合会の会長ですが、「地域子育て支援センター事業」について、未就園児に対する子育て相談を現在 44 の全園で行っております。幼稚園としても進めているところなので幼稚園に対しても枠を広げ、盛りこんでいただけると大変ありがたいと思います。
川田総括主査	担当課と相談のうえ、可能な限りやって参りたいと思います。
中山慶委員	子供の家で指導員と子供を連れのお母さん達が交流していますが、みんなが課題を持っていることだろうと思いますので、その辺を把握しながらここを直されるのであればお願いしたいと思います。
斎藤会長	それでは、その他ということで「IT講習」「第3図書館」について事務局から説明をお願いいたします。
井上係長	〔IT講習について説明〕
松本係長	〔第3図書館について説明〕
斎藤会長	「IT講習について」と「第3図書館について」の説明がありましたが、第3図書館の意見書については激論の未完成したものであることをご報告いたします。IT講習については14年度のところに（案）とありますので、審議事項としてご意見をいただきたいと思っています。
中山剛委員	IT講習について今年度は1万人で、何倍もの申し込みがあったのに、14年度は定員が2,500人になってしまうのはどうしてなのか、また民間では最新のマシンと優れたインストラクターを置いていつでもどうぞという体制になっています。こうしたところを大いに活用していただきたいと思いますがいかがでしょうか。
井上係長	本年度は、国の補助を受けて実施しておりますが、来年度は市の単独事業となります。予算額は本年度が2億円、来年度はその1割の2千万円を予定しております。 また、最終的には900以上の講座を予定しておりますが、その講師は人材派遣会社、民間パソコンスクールを活用し、会場も総講座数の約半分を民間のパソコンスクールで実施しております。
我妻委員	図書館の「運営」とありますが、例えば学校は教員というライセンスを持ったものが現場を運営しています。図書館もライセンスを持

った司書が運営をしています。そこには区切りがあり「運営」ということを明確にしておく必要があると思います。

また「ボランティアとしての図書相談員」とありますが、この認定、資格基準をどのようにするのか、しっかり枠を決めておいていただきたいと思います。

松本係長

これは意見書ですので、これから細かいところは検討してまいります。例えば図書館友の会のような組織がいろいろな公立図書館で組織されております。そういった組織を形成して地域の方々に参加していただき、例えば配本とか案内とかのボランティアとしてかわっていただきたいと考えております。

図書相談員につきましては、これからそういったボランティアを育成する研修も必要になってくるのではと考えております。文部科学省で今年の7月に「公立図書館の設置及び運営上の望ましい基準」というものが発表され、その中で必要な知識技能等を有する者のボランティアとしての参加を一層促進すべきという基準も示されており、これに沿ったものです。

吉田委員

第3図書館の開館の目途はいつになるのですか。

松本係長

18年度の開館を目標としております。

加藤委員

ボランティア講師養成講座がありますが、15年度以降ちゃんと機能するように検討されているのでしょうか。またIT講習は1回の受講では不十分だと思います。継続的な講習について有料で民間を斡旋するようなシステムを築いた方が実践的で、経済効果もあるのではないのでしょうか。

参加者の比率が女性の方が高いようですが、男女共同参画などを考えるといろいろな活用ができるのではないのでしょうか。また男性が参加しにくい設定になっていないかご検討いただきたいと思います。

第3図書館について、建築コンペや夢の図書館作文コンクールなどを実施していただけるとおもしろいと思います。また、環境共生型の建物ということで特色を出していただきたいと思います。

小島委員

IT講習について、今年度18,000人の予算を取ってありますが、現在約1万人で、8,000人を今後3ヶ月でやるわけですが、500講座くらい持たないと消化できないだろと思います。あと8,000人の消化について説明いただきたいと思います。

倍率がだんだん下がっているというのは、同じ方法で募集しているからで、地域の生涯学習施設や福祉施設などへの出前講座でもやらなければとても消化できないと思います。また、パソコン上達のコー

ツは友達とみんな一緒に学習しないとおもしろくないからで、やはり友達と一緒に勉強するなら出前講座を取り入れていくべきと思いますが、その点もお伺いします。

14年度の案に、年賀状作成とかデジカメ活用等とありますが、これらは個人でやっていくことで、市でやる講習会の内容ではないと思うので、この辺も聞かせて欲しいと思います。

井上係長

県の方の人口割と言うことで873講座、これに単純に20人を掛けますと17,460人のところ、宇都宮市は背伸びをして18,000人という目標を掲げたわけでございます。これにつきましては日々努力をして実施したわけですが、10月時点での応募者が24,069人で、修了者は約10,000人。これはどうしても中央地区に人気があり抽選で漏れる方があるということでございます。一方市街地から外れたところでは定員割れをしているところもあるということで、実質的に受講者が9,985人ということになっております。いろいろな方法と申しまして、今年はほぼ固まっておりますので、出前講座等につきましても実施できればと思いますが、ひとつの方法ということで検討させていただきたいと考えております。

また、年賀状やデジカメ活用等が無駄であるというご指摘も参考に再度検討したいと考えます。

14年度につきましては、今年受講された方、また受講できなかった方を対象にまいります。

小島委員

今年は、18,000人を対象として2億円の予算を組んでいるのであり、余したら国に返さなければならない。今後3ヶ月であと8,000人できるのかどうかそこが聞きたい。

今までのようなやり方をしていたのでは、とてもできない。それに対して責任を感じてほしい。

丹生課長

IT講習については、12月の常任委員会でも質問をいただきました。市の施設で実施する場合は1講座当り16万円、また民間パソコンスクールで実施する場合には1講座当り28.4万円という標準的な県の基準額で873講座の予算を計上しました。実施にあたっては少しでも効率的に講座を実施するため、競争入札を行いました。が、ふたを開けてみると、予算額の約50%で講座ができてしまった。つまり、極端に言えば2億円の事業が1億円でできてしまったということであります。そこで、予定の873講座を上回る912講座を実施することとしたものであります。

過日常任委員会でもご指摘を受けまして、さらに講座を増やせる方策はないかと検討いたしましたが、IT講習を実施するには、インターネットに接続できる環境が必要となります。業者に相談しましたが、新たな環境設定には3か月を要するとの回答でした。従いま



して既に環境設定のある公民館や民間のパソコンスクールで可能な限り実施する方向で進めているところです。

斎藤会長

この問題をこのまま審議し続けても、非常に大きな問題で見とおしが立たないような気がします。ですからこの懇談会では一応ご了承いただいて、その後は市当局の方でご検討いただくということで、いかがでしょうか。

一 同

了承

斎藤会長

ありがとうございました。  
それでは、(案)を落としてください。  
委員の皆様には長時間にわたり、ご協力いただきまして誠にありがとうございました。これで懇談会を終了いたします。

井上係長

以上で第1回の生涯学習推進懇談会を終了いたします。ありがとうございました。

宇都宮市生涯学習推進懇談会出席委員名簿(平成13年12月25日)

(平成13年12月1日現在)

	氏名	備考
1	塚原 毅繁	宇都宮市議会議員
2	綱河 秀二	宇都宮市議会議員
3	今井 恭男	宇都宮市議会議員
4	中山 慶恵子	宇都宮市議会議員
5	山本 正人	宇都宮市議会議員
6	小島 延介	宇都宮市議会議員
7	市川 秀夫	栃木銀行取締役頭取
8	齋藤 健次郎	文星芸術大学教授
9	佐々木 英和	宇都宮大学助教授
10	保田 美和子	児童文学者、子ども文庫
11	我妻 玲子	書店経営(こどもの本専門店ぱく)
12	金子 耀誉	宇都宮地区幼稚園連合会長
13	木村 利喜三	宇都宮市公民館連絡協議会長
14	定岡 明義	宇都宮市教育会長
15	臼井 佳子	宇都宮市国際交流協会日本語部会長
16	大房 信一	宇都宮市体育協会会長
17	須藤 脩	宇都宮商工会議所常務理事
18	添田 包子	女性団体連絡協議会長
19	人見 智子	宇都宮市青年団体連絡協議会副委員長
20	三村 正行	宇都宮市PTA連合会長
21	加藤 貞政	公募
22	中山 剛夫	公募
23	吉田 文江	公募

：会長， ：副会長